

鳥取県環境学術研究等振興事業費補助金研究実績報告書（地域振興部門）

研究期間（2年目/2年間）

研究者 又は 研究代表者	氏名	(ふりがな) いずいし さちこ 出石 幸子
	所属研究機関 部局・職	鳥取看護大学 看護学部 看護学科 電話番号 0858-27-2800 電子メール sizuishi@ns.tcn.ac.jp
研究課題名	鳥取県における訪問看護師のワーク・ライフ・バランス実態調査	
研究結果	<p>鳥取県内の訪問看護師3名に訪問看護への思いややりがい、働き続けるために必要な支援などについてインタビューを行い、調査票の参考とした。</p> <p>平成29年12月県内の訪問看護ステーション54施設に調査依頼を行い、24施設の同意を得た。「看護職のWLBインデックス調査票」を一部改変し、訪問看護ステーションの施設・職員の実態を調査した。（回収率：施設70.8%、個人66.4%）</p> <p>施設調査で、週休形態では、週休2日制を取っているところは、64.7%（11施設）、4週8休制、4週6休制ともに11.8%（2施設）であった。所定年間休日は、平均117.8日、年次有給休暇取得率は54.4%であった。夜勤待機制を88.2%（15施設）がとっていた。勤務表の作成基準として、週末2日以上連続の連休回数の設定がある施設は47.1%（8施設）、勤務表の提示時期がある施設は52.9%（9施設）、オンコールの上限がある施設は5.9%（1施設）、オンコールの日数上限がある施設は5.9%（1施設）であった。</p> <p>WLBの推進体制について、「WLB支援への積極的取り組みの考え方が、経営理念や人事の方針として明文化されている」施設は、52.9%（9施設）。「職場内のプロジェクトチームを作っている」施設は、29.4%（5施設）。「WLBを推進しているかモニタリングしている」施設は、29.4%（5施設）。「職場を評価する管理指標としている」施設は、29.4%（5施設）。「職員のWLBに配慮する必要性を管理研修に取り入れている」施設は、41.2%（7施設）。「施設内アンケートやヒアリングにより、意見を取り上げ改善している」施設は、47.1%（8施設）。「WLB支援制度について情報提供をしている」施設は、64.7%（11施設）。「WLBの理解を深める働きかけをしている」施設は、58.8%（10施設）であった。</p> <p>個人調査では、回答者82名のうち正規職員は70.7%（58名）、パート職員22%（18名）、短時間正職員6.1%（5名）であった。平均年齢は50.3歳（±10.0）、看護師経験年数は、18.7年（±12.2）、現在の勤務先の経験年数は、5.1年（±5.2）であった。調査前月に時間外勤務をした人は、52.5%（43名）、待機をした人は84.1%（69名）であった。時間外勤務の申請時間の月平均は、12.9時間（±13.9）であり、支払われた時間外手当の時間は、月平均5.8時間（±6.8）であった。有休休暇の平均取得日数は、9.3日（±6.6）であった。</p> <p>健康状態について、非常に健康7.3%（6名）、まあ健康68.3%（56名）、やや不調18.3%（15名）、非常に不調2.4%（2名）、健康とも不調ともいえない2.4%（2名）であった。</p> <p>職場や仕事についての評価について、4件法で回答した中では、【経営・組織について】の項目では、[現在の仕事の量と仕事の内容に対して今の給与は妥当である][今の勤務先の将来に不安はない]という項目が、『そう思う』『ややそう思う』を合わせても50%という低い評価であった。【上司について】は、全ての項目で、『そう思う』『ややそう思う』を合わせて、70~80%の高い評価であった。【現在の仕事に対する評価】では、全ての項目で、『そう思う』『ややそう思う』を合わせて、75~85%の高い評価であった。【労働環境について】は、[一週間程度の連続した休暇を必要に応じて取得できる][定時で終わることのできる業務である]という項目が、『そう思う』『ややそ</p>	

研究結果	<p>『思う』を合わせても35～45%という低い評価であった。【満足度（現在の働き方・生活）について】は、『『思う』』『やや思う』を合わせて、65～75%の高い評価であった。</p> <p>その他、自由記述では、仕事と生活が両立する上で必要と思われる支援・希望などについて、「子どもが病気の時のあずけ先があると助かる。」「年末年始、祝日など子供を預かってもらえるような支援がほしい。」「児童館が18時30分までであるため、研修の参加が難しい。」「会社から自己研鑽を求められるが、研修が時間外であるため難しい。」「介護が必要な家族がいる場合の勤務時間短縮や待機の調整。」「パートになるか、退職するしかない選択。」「有給休暇の取得。」「パートにも看護休暇や特別休暇を取らせるようにしてほしい。」「管理業務と訪問業務を分ける。」などの意見がみられた。</p>	
研究成果	<p>施設調査から、週休形態やオンコール体制や時間外申請など、施設毎に差があることが明らかとなった。設置主体によって差が生じることは、否めないが、労務管理について一定の基準があることが望ましいと思われた。</p> <p>個人調査から、職場や仕事についての評価について、【上司について】【現在の仕事に対する評価】【満足度（現在の働き方・生活）について】は、高い評価といえるが、【経営・組織について】【労働環境について】は、低い項目があり、組織的対応を検討していくことが必要な項目と思われた。</p>	
次年度研究計画	<p>次年度計画の予定なし。</p>	
報告責任者	所属・職氏名	<p>鳥取看護大学・鳥取短期大学グローバルセンター 西垣ちひろ  電話 0858-27-0107  電子メール nishigaki@ns.cygnus.ac.jp</p>

注1) 表題には、環境創造部門、地域振興部門、北東アジア学術交流部門のいずれかを記載すること。

2) 「研究期間（ 年目/ 年間）」及び「次年度研究計画」は、環境創造部門及び地域振興部門において記載すること。

3) 研究者の知的財産権などに関する内容等で、非公開としたい部分は、罫線で囲うなど明確にし、その理由を記すこと。

4) 研究実績のサマリー及び図表資料を併せて提出すること。